

岳連 ニュース

宝 永

URL: <http://www.shizuokam.com>(一社)静岡県山岳・スポーツ
クライミング連盟〒420-8076
静岡市駿河区八幡3-1-17
TEL(FAX) 054-288-7512
編集発行/総務委員会
令和7年3月10日発行
第50号

開講式

令和6年度の第64回冬山登山講習会・第62回登山指導者講習会が、1泊2日にて2月1日(土)～2日(日)にかけて富士山御殿場口双子山付近で開催された。講習会に先立ち主催団体である静岡県教育委員会より健康体育課大川主幹、高体連登山部鈴木部長の参加を頂き、例年通り担当講師による事前打合せ会が行われた。内容は各講師の分担と指導内容、指導方法について、昨年までの指導項目リストをベースに検討、確認を行う。またスポーツ庁より出された通達「冬山登山の事故防止について」の内容確認が行われた。今回は更

冬山登山技術の基本習得へ 冬山講習会富士山御殿場口開催

に高体連から高校生の緊急時対応マニュアルの説明があった。

講習会は高校生46名、一般参加者初級2名、中級4名、顧問・指導者9名、講師・本部役員を合わせて79名の参加を得て開催。開会式では県岳連代表者の挨拶に続き、県教委健康体育課、大川主幹のご挨拶を頂く。その後、元気象庁予報官の西島昇講師による「本日及び明日の気象予報」「富士山の雪崩」「雪崩ビーコン」の解説を受けると、各クラスに分かれて実技講習が開始された。

高校生はテントの設営を1校がデモンストレーション、各生徒はその様子を見学して設営の手順を学び、各学校ごとに設営を行った。その後昼食を取り訓練場所を求めて移動する。双子山周辺の積雪量が少なく心配したが、各班とも沢筋の斜面を使い、事前打合せの講習項目に基づき雪面歩行(ツボ足・キックステップによる直登高・直下降・ピツ斜登高・斜下降)、ピツ



設営講習

ケル技術(名称・持ち方・使用方法・耐風姿勢等)の訓練を行う。中級・顧問においては雪上歩行・アイゼン歩行・アンザイレン訓練等を行い、一日目の講習を終了した。

2日目は前夜からの降雪で一面が銀世界に変わる。早朝6時より雪の降

クライミングコンテスト2月大会 リード競技をスクエアで開催

2月11日にスクエアアクライミングセンターにてクライミングコンテストが実施された。男子14名、女子12名が参加し、リードの登りを競った。

男子は予選からTOPが3人出るルートであったが、ホルルドの間違いやクリップのミスが出るなど、波乱の展開であつ

る中、ヘッドランプを灯して行動開始した。昨日に続き双子山付近まで登高すると、アイゼン歩行、滑落停止の訓練を行う。初級Bは中級・指導者と合流して指導方法の講習と兼ね、ロープを使った確保技術を訓練。顧問はロープを使った悪場の通過訓練が行われた。

閉講式の講評では今回学んだ講習内容はあくまで基本的なものであり、状況により臨機応変な対応が必要と成る。繰り返し行うことにより技術を身に付け、今後の安全登山に努めて頂きたい。更にステップアップして積雪期の登山を楽しんで頂きたい、との話があった。(内海廣治)

	氏名	学校名	競技順	予選	付記	順位	決勝	付記	計時	順位
男子	船越 琉生	静岡西高	14	TOP		1	33		3:02	1
	宮川 幸大	清水第一中	13	TOP		1	31	+	3:18	2
	岡部 星輝	浜松東高	12	TOP		1	28	+	3:18	3
	齋藤 颯馬	富士広見小	9	28	+	4	21	+	3:06	4
	増井 魁人	浜松日体高	6	28		5	21	+	2:29	5
女子	金 時亮	浜松日体高	5	18		6	11		2:02	6
	堀内 優里	おおぞら高	10	TOP		1	TOP		4:13	1
	狩野 風	浜松学芸高	11	TOP		1	42	+	3:51	2
	永嶋美智華	静岡西高	12	36	+	3	42	+	3:18	3
	蒔田 遙	焼津大富中	6	36	+	3	40	+	3:30	4
	山本 唯菜	静岡城山中	9	35	+	5	38	+	3:55	5
	込山 虹来	静岡籠上中	7	34	+	6	34	+	3:10	6

名、決勝でもTOPが1名という結果であった。予選の課題はメイン壁で設定され、強傾斜からルーフに入り最終面へ抜けていくルートだったが、三手からが決勝進出の境目であった。決勝でも勝負所はメインのルーフを抜けたところであった。全員が三十手以上進み、最終面に入っていく。2、3位はゴールタッチという僅差での勝負であった。最終成績は男子1位船越、2位宮川、3位岡部、女子1位堀内、2位狩野、3位永嶋となった。(岩田幸裕)

指導者研修会(指導者資格更新研修)

山岳指導者としての資質向上を図る

令和6年度の指導者研修会(兼スポーツ指導者資格更新研修会)が1月26日、静岡市の「あざれあ」で開催された。

参加者は公認指導員24名、一般10名の計34名。

研修は3部構成で実施され、第一部は「静岡県の山岳遭難」、第二部は「山岳事故の法的責任」、第三部は「セルフレスキュー・シミュレーション」をグループに分かれて行った。

第一部「静岡県の山岳遭難・事故報告・現状と原因・対策について」と題して静岡県警山岳遭難救助隊・坂上雅信隊長よりの講義は、まず「山頂と命の2択なら命を選択



してください」と、多くの

の救助経験から出た言葉

を聞く。次に県下の山岳

遭難状況について要因別・

地域別に報告を受けた。

発生件数はコロナ禍の前

に戻り、重大事故が増加

している。場所は富士山

が圧倒的に多く、また遭

難の原因が疲労による行

動不能によるものが多い

とのことであった。更に

遭難事例より経験に基づ

いた多くのアドバイスを

頂く。やはり登山届の提

出が救助を早める1助か

多くのアドバイスは我々指導者として大いに参考に成り、今後の指導活動に生かして行きたい。

第二部の「山岳事故の法的責任・三重県遭難防止講演会の報告」は受講した小林(玲)・高野両指導員から報告を受ける。

講演会の講師は弁護士・国立登山研修所専門調査委員の溝手康史氏。内容

は、登山中に発生した事故でリーダー等にとどの

ような責任が生じるか、ボランティア等で整備した

登山道に責任は生じるか等の山でのトラブルにつ

いて事例を交えての解説を受けた報告。先ず山岳

事故の法的責任事例は多くないが学校登山、ガイ

ド登山、人を募集しての登山教室は裁判に成りやす

い。逆に山岳会の遭難は裁判に成りにくい。法

的責任とは「民事責任(損害賠償責任)」と

「刑事責任(業務上過失致死罪等)」を言う。そ

して注意義務には損害防

止義務、安全配慮義務、

安全確保義務、事故の結

果回避義務、事故の予見

負い、安全確保義務はガイド・教師・講師が負う。これらの内容を事例に基づいての解説を受ける。

リスクマネジメントとして、自主登山と引率登山との区別、「自主登山は個人の自由の原則」「引

率登山は事故が起きるさ

いように注意義務を自覚

し、無理をしない」との

ことであった。

登山道の整備と責任に

関しては、登山道での事

故について裁判事例は過

去に1件、遊歩道に付い

ては街中と同じ安全性が

求められる。両事故に関

する事例の解説後、「遊

歩道での事故については

賠償責任が生じやすく

「登山道は利用者の自己

マネエートの元、「一般登山道のセルフレスキュー」・「岩場のセルフレスキュー」の2題に付いて事故の概要を示した略図を基にグ

ループに分かれてセルフレスキューのシミュレー

ションを行った。グルー

プ討議では多くの経験に

基づいた話が聞かれ、有

意義な時間であった。前

年度の研修会での村越教

授(静大)の講義では、

ある程度高山での登山経

験の長い指導者ほど、状

況を読む力や危険予知能

力が高いとの分析結果が

出ているとのこと。また

指導者同士の横の繋が

りも深まったことと思

います。今回の研修が必ずや

安全登山の向上に繋がることを信じています。

(内海廣治)

授(静大)の講義では、

ある程度高山での登山経

験の長い指導者ほど、状

況を読む力や危険予知能

力が高いとの分析結果が

出ているとのこと。また

指導者同士の横の繋が

りも深まったことと思

います。今回の研修が必ずや

安全登山の向上に繋がる

ことを信じています。

(内海廣治)

授(静大)の講義では、

ある程度高山での登山経

東海ブロック研修会(JMSCA)

審判員認定ドーピング競技規則など学ぶ

令和6年度JMSCA主催のスポーツクライミング部東海ブロック研修会が当連盟の担当で令和7年1月18日、19日に静岡市のもくせい会館で開催されました。

C級審判認定研修に12名(内静岡県10名)、審判・セッター更新・総合研修に27名(内静岡県12名)の参加がありました。

C級審判の研修では、現役の選手の参加が6名あり、ジャッジされる側としてその基準を明確にしておくことが重要であると感じました。

19日には、競技規則、ドーピング、国民スポー

ツ大会について、JMSCAの担当の方より解説があり、ボルダーが新しい採点方式に移行して行くことなど変更点の確認や実際に映像でジャッジをするなどの実践的な内容でした。

昼休みをとれない厳しい日程の中、14時30分に全体会は終了し、その後、東海4県での本年度の東海ブロック大会の打ち合わせや競技順の抽選を行い解散となりました。遠路来ていただいた講師の方々や参加者の皆様方に感謝申し上げます。

(諸戸明)

第25回高校クライミング大会 東海4県合同開催 全国大会出場選手決まる

11月2日、浜松市のスクエアクライミングセンターにて第25静岡県高校クライミング競技大会(兼全国高等学校選抜スポートクライミング選手権大会予選会)が実施された。今回は全国大会の予選会として愛知・岐阜・三重の三県との合同開催となった。男子24名、女子10名(内県内選手は男子7名、女子5名)が参加し、登りを競った。

男子のルートは5.12a、決勝5.13aで設定されていた。予選ルートは下部ではガバホールが多く、ルーフに入っていくところが少々難所であった。



県内表彰選手

静岡県高校クライミング競技大会リザルト				予選	決勝	
順位	氏名	学校名	予選	高度	高度	時間
女子	1 堀内 優里	おおぞら高等学院	TOP	TOP	TOP	02:58
	2 佐野 愛莉	暁秀高等学校	TOP	TOP	TOP	03:51
	3 伊藤 未唄	静岡西高等学校	TOP	33 +	33 +	02:38
	4 鈴木 結菜	静岡農業高等学校	TOP	29 +	29 +	02:59
	5 鈴木 奏羽	浜松学芸高等学校	34 +	22 +	22 +	03:02
男子	狩野 風	浜松学芸高等学校	DNS			
	1 中川 琉大朗	池新田高校	TOP	41 +	41 +	02:55
	2 岡部 星輝	浜松東高等学校	TOP	35 +	35 +	04:02
	3 増井 魁人	浜松日体高等学校	TOP	26	26	02:26
	4 針幸 泰希	浜松日体高等学校	TOP	22 +	22 +	01:38
	5 金 時亮	浜松日体高等学校	33 +			
	6 細川 夕月	浜松日体高等学校	29 +			
	7 齊藤 夏輝	浜松日体高等学校	27			

県内選手はここを越え、ルーフを抜けて行き、最終面が勝負所となった。体勢が安定しにくいところ、少々物足りないところがあったが、5人中4名が完登するという結果であった。女子は参加人数も少なく、10名全員が決勝へと進むこととなる。決勝は少し距離が長く、

ルーフ内でフォールし、昨年全国へ出場した2名が今年も行くこととなった。

女子のルートは予選5.11d、決勝5.12cで設定された。県勢の実力からすると、少々物足りないところがあったが、5人中4名が完登するという結果であった。女子は参加人数も少なく、10名全員が決勝へと進むこととなる。決勝は少し距離が長く、

雪山登山教室 蓼科山

中級者対象の計画山頂踏む

令和6年度の雪山教室は、2月23日(日)3連休の中日に、参加者17名、指導者2名の19名の参加を得て実施しました。

昨年度の車山登山が悪天候の影響もあり、物足りない内容でしたから初心者よりも中級者を対象に意識した計画にしました。

蓼科山は北八ヶ岳、白樺湖の西に位置して2531mの標高があり、山頂部は森林限界を超えて、相当の風と低気温が予想され、雪山講習には相応

ルーフを越えていくところ、バランス力・持久力などが要求されるルートであった。上位2名は安定したパフォーマンスを発揮し、完登することができた。

全国大会であるが、日本代表の強化合宿のため今大会に出場できなかった選手と合わせ、男子3名、女子6名が駒を進めることとなった。

(鈴木重幸)

しい内容です。

南のスズラン峠が一般的登山道ですが冬季の道路封鎖とか駐車場の狭さから判断し、西の白樺湖高原国際スキー場からの入山、往復を企画しました。

夏のコースタイムではゴンドラリフトの終点からの往復所要時間で4時間強です。

冬季には2割増しの5〜6時間と推定しました。2月23日8時半にスキー場駐車場に集合、ゴンドラリフトの終点、御泉水



蓼科山山頂

自然公園駅に9時には到着し出発。トレースは明確で順調に進む。林道を2回交差して7合目には30分かかるに到着。此処で早めにアイゼンを装着して急になった登山道を登る。トレースは明確でしたが急な所もあり、アイゼンが必携でした。馬返し、天狗の露地と進むが此処で不調な方が発生して下る事となってしまった。

将軍平で休息し全員集合するのを待ったが、先頭グループは冷えてしまった。余裕のある方には先に進んでもいい、余裕の無い方には出来る範囲で登る事とする。

森林限界を超えると風も出て、隊列が伸びてしまったが迷うような所は無いため先頭は12時45分頃に登頂、15分位の間に11人が登る事が出来た。視界が良かったので分散行動も問題無かったが通常の雪山ではパーティーの分散は非常に悪い状態でした。

下りは問題無く、2時間少しでリフト終点に着する事が出来た。

携帯電話が届いたので連絡はスムーズ、リフト駅に全員集合出来て駐車場で無事解散となった。

今回の反省点としては参加者の力量は不明です。から、余裕のある企画立案が一番重要である。登山教室で事故や凍傷が発生しては申し訳ない。来年度以降の計画には充分勘案すべきでしょう。

(小林久二彦)

第1回TAKAKUSA山岳レース

男子 宮本(富士高) 女子 常盤(富士高) 優勝

12月8日、第1回TAKAKUSA山岳レースが高草山で行われた。高校生19名が高草山を会場とする登山競技で熱戦を繰り広げた。例年この時期に、竜爪山で竜爪競技会が行われていた。しかし数年前の台風の影響により周辺の道路が通行止めとなり復旧の目途がたっていない。そのため竜爪競技会に替わる大会として、本年度から開催されることとなった。



開会式

コースは、花沢の里観光駐車場をスタートし、鞍掛峠を経由し高草山を目指す標高差約470m、距離約3.4kmのコースである。当日は、好天に恵まれ晴



スタートライン

9時50分にスタート。続いて高校男子の部が規定荷重21kgのザックを背負い11時にスタートした。休日の為、ハイキングを楽しむ家族連れや、ハイキングクラブとの混雑がスタート地点から鞍掛峠までの間で心配されたが、大きな問題はなかった。また、鞍掛峠では登山客から多くの声援を頂くこ

とができた。参加者全員が完登し、笛吹段公園で閉会式を行い、大会は無事に終えることができた。入賞者とタイムは下記のとおりである。

【高校男子の部】優勝 宮本芽吹希(富士) 49分22秒、2位 濱村俊太(富士) 49分59秒、3位 川崎爽陽(富士) 52分48秒

【高校女子の部】優勝 常盤小陽(富士) 54分01秒、2位 石川月菜(富士宮西) 56分50秒、3位 新沼美咲(富士) 57分52秒

全国高校選抜SC選手権大会

永嶋(静岡西)6位 狩野(浜松学芸)7位

第15回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会が12月21、22日、埼玉県加須市の加須市民体育館で開催された。今回は久々に予選、準決勝、決勝の3ラウンドとなった。総勢男子122名、女子96名が参加し、白熱した試合を繰り広げた。

予選はフラッシュで行われ、2本のルートを登る。男女とも下部ではガバールドが続くが、ボテパート、ポケットの連続、ランジのパートなど、それぞれテイストが異なるルートが作成されていた。準決勝には26名が進出できる。静岡県からは、男子3名、女子6名が参



女子入賞選手

順位	氏名	所属	決勝成績
1	小田 菜摘	大阪府・府立東百舌鳥高等学校(2年)	39+
2	村越 佳歩	茨城県・県立竹園高等学校(2年)	39+
3	麦島 心花	愛知県・中部大学春日丘高等学校(1年)	38+
4	山田 泉都	長野県・長野県松本美須々ヶ丘高等学校(2年)	37+
5	坂井 美緒	奈良県・県立香芝高等学校(3年)	35+
6	永嶋 美智華	静岡県・県立静岡西高等学校(3年)	34
7	狩野 凪	静岡県・浜松学芸高等学校(1年)	27
8	仲田 永和子	神奈川県・県立鶴嶺高等学校(2年)	16

【女子決勝リザルト】女子の準決勝では左右に移動しながらボテとカチが織り混ざったルート

であった。30手の高度まで安定して登っていきける持久力、技術力を持つている選手が決勝へと進んだ印象がある。静岡県の選手は2名とも決勝へ出場した。決勝は2面を使った長いルートで行われた。傾斜が変わる前にトラバース気味にルートを登り、ランジパートが待ち受ける。そこを越えると、上下反転するムーヴで横移動をしていき、最終パートへと進む。浜松学芸高校の狩野選手は反転パートでフォール、静岡西の永嶋選手は最終のボテパートでフォールする結果となった。

(岩田幸裕)



ユースボルダー競技大会

男子 船越(静岡西) 女子 狩野(浜松学芸) 優勝

第18回静岡県高等学校・ユースボルダー競技大会が、1月13日(月)に静岡市のビンディクライミングジムに26人(男子14、女子12)の参加を得て競技が行われました。

今回は予選・決勝とも本館のみで行われ、予選は80分のセッション方式で男女共通の6課題に加えて男女別の6課題を加えた12課題で行い、男子は9完登の2名と8完登の4名を合わせて6名(2級〜3級)、女子も12全完登の堀内さんを筆頭に9完登までの7名が決勝に進出した(2級〜2段)。

4分×4課題のベルトコンベア方式で行われた決勝は、女子は3完登の狩野さんと堀内さんの接戦となり、第3課題のアテンプト数で上回った狩野さんが初優勝した(1級〜初段)。男子決勝は、2完登で、船越君、宮川君、中川君の争いとなったが、第2課題で唯一ゾーンを獲得した船越君がこ

れを生かしての優勝となった(初段〜二段)。

予選、決勝を通して多様なテクニックやフィジカルが要求されるものが多く、予選の共通課題では唯一女子のみの完登が出た課題もあり、男女の垣根を越えて会場は盛り

2024ユースボルダー大会決勝リザルト

男子		1		2		3		4		計				順位
氏名	学校名	Tat	Zat	Tat	Zat	Tat	Zat	Tat	Zat	T	Z	Tat	Zat	
船越 琉生	静岡県立静岡西高等学校	5	3		1	1	1		7	2	4	6	12	1
宮川 幸大	静岡市立清水第一中学校	1	1			2	1		10	2	3	3	12	2
中川 琥大朗	静岡県立池新田高等学校	3	1			1	1		3	2	3	4	5	3
矢澤日向汰	静岡市立東中学校	2	2				1		3	1	3	2	6	4
川口 太造	東海大翔洋高中等部		2			2	1		10	1	3	2	13	5
岡部 蒼空	北浜東部中学校								5		1	0	5	6

女子		1		2		3		4		計				順位
氏名	学校名	Tat	Zat	Tat	Zat	Tat	Zat	Tat	Zat	T	Z	Tat	Zat	
狩野 風	浜松学芸高等学校	2	2	1	1	2	1		1	3	4	5	5	1
堀内 優里	おおぞら高等学校	2	1	1	1	3	1		1	3	4	6	4	2
永嶋美智華	静岡県立静岡西高等学校	2	2	1	1		1		3	2	4	3	7	3
込山 虹来	静岡市立籠上中学校	7	7	1	1		3		4	2	4	8	15	4
佐野 愛莉	加藤学園暁秀高等学校		1	1	1		1		4	1	4	1	7	5
山本 唯菜	静岡市立城山中学校		1	1	1		1		1	3	1	3	6	6
蒔田 遙	焼津市立大富中学校			1	1		1		3	1	3	1	5	7



女子表彰選手

男子の予選は傾斜の少ない壁面に設定され、易しめの印象のルートであった。大きめのホールドから中間部では力チが出てきて、ふたたび持ちやすいホールドという構成。5名がTOPをとり、決

11月23日にブルーキヤニオンにて、今年度二回目のクライミングコンテストが実施された。今回はLJTと重なったこともあり、いつもより大会の参加者が少なく、男子9名、女子11名の参加となった。

クライミングコンテスト11月大会 男子 岡部(浜松東) 女子 永嶋(静岡西) 優勝

氏名	所属	予選	付記	順位	決勝	付記	計時	順位
岡部 星輝	浜松東高	TOP		1	27		3'03	1
岡部 蒼空	浜松北浜東部中	TOP		1	23	+	2'59	2
矢澤日向汰	静岡東中	26	+	6	22	+	2'26	3
齋藤 颯馬	富士広見小	TOP		1	20	+	3'57	4
増井 魁人	浜松日体高	TOP		1	17		2'20	5
西尾 晴道	掛川西郷小	TOP		1	12	+	1'51	6
永嶋美智華	静岡西高	29	+	1	28	+	2'40	1
山本 唯菜	静岡城山中	23	+	6	21	+	3'02	2
狩野 風	浜松学芸高	26	+	2	21		3'26	3
蒔田 遙	焼津大富中	26	+	2	20.5	+	2'49	4
谷 麻亜紗	裾野西中	24	+	5	20.5		2'56	5
鈴木 希実	沼津市立立高中等部	26	+	2	17		2'26	6

勝へと進出した。女子の予選はメインの壁に設定されていた。下部では細かいホールドが多く、消耗させていくような課題であった。最終面に入れるかどうかが決勝への分岐点となった。決勝は、男女ともに同



男子表彰選手

じルートで、メイン壁に作られた。テクニカルな動きが多く、オブザベーション能力だけでなく、それを実現する体幹・柔軟性なども求められてい

た。強傾斜を抜けていく箇所動きが難しく、最終面に達したのは男女それぞれ3名ずつであった。このルーフを抜けるところで、2位、3位が分かれ、1位は頭一つ抜き出した形で勝敗が決した。

男子1位は岡部星輝(浜松東高)、女子1位は永嶋美智華(静岡西高)が獲得した。

(岩田幸裕)



第3回理事会

日時 令和6年11月11日
18時30分～19時30分
会場 静岡県男女共同参画センター「あざれあ」5階

出席者 理事18名中17名
監事2名中2名
理事 木ノ内高嘉、鈴木重幸、内海廣治、滝田博之、堀内修、小林久二彦、望月喜久治、増田浩二、篠崎勇、大石幸男、出利葉義次、鈴木雅春、中川清、加藤敏美、小林玲子、岩田幸裕、諸戸明
監事 前川朝夫、望月保男
挨拶 木ノ内高嘉会長
富士山初冠雪が11月7日に発表された。静岡県側では6日に雪化粧した富士山が目視されたが、山梨県側では目視できず1日遅れとなった。富士山初冠雪の定義は今のままで良いのかと思った。国民スポーツ大会では少年女子の活躍で競技得点33点を獲得した。スポーツフェスティバルは、栗ヶ岳で開催され無事に終了した。南アルプス写真展は、入場者が約500名であった。

○各委員会の報告

(1)指導・遭難対策委員会
・秋山登山教室が9月28日に薬師岳で開催された。紅葉にはまだ早かったが、天候に恵まれ良い山行となった。

(2)競技委員会

・国民スポーツ大会が10月12～14日に開催された。少年女子(永嶋選手、狩野選手)がボルダー3位、リード4位の活躍で競技得点33点を獲得した。少年男子は決勝に進むことができなかった。

・クライミングコンテス
トが9月16日に開催された。男子15名、女子12名が出場した。

・県クライミング大会が11月2日に開催された。全国選抜大会へは、男子3名、女子6名の計9名が出場することとなった。

(3)国際委員会

・海外トレッキングへは、現在6名の参加希望者がいる。

(4)その他

・10月26日に富士サニールックで開催された県スポーツ協の「チャレンジスポーツ教室」に協力をした。参加者は22名であった。

○各委員会の計画

(1)指導・遭難対策委員会
・指導者研修会が、あざれあで1月26日に開催される。三部構成で

・冬山講習会を、2月1～2日に富士山御殿場口二子山付近で実施する。

降雪の状況により講習内容や日帰りも検討している。

・雪山教室を、2月12日学習講座、2月23日実技講座の開催を予定している。実技講座は、蓼科山のスノーハイクで、アイゼン、ピッケルは使用しない範囲で実施する。

・アイスクライミング体験講習会を2月16日に金窪ヶ沢ゲレンデで開催予定。アイスクライミング講習は初の試みである。

雪山教室、アイスクライミング体験講習会ともに参加者は山岳保険に加入の必要がある。

(2)競技委員会

・クライミングコンテス
トを11月23日に開催する。

・第18回静岡県高等学校ユースボルダ競技大会を1月13日ビンティクライミングジムで開催する。

・TAKAKUSA山岳レースを、12月8日に開催する。竜

爪競技会に替わる事業で、初の試みとなる。

○その他

・JMSUCAスポーツクライミング部ブロック別研修会(東海ブロック)が、1月18日に開催される。静岡県で開催するので参加を促していただきたい。

・静岡新聞社の投票型紙面企画「みんなで選ぶ!静岡の山」の協力依頼があった。

(鈴木重幸)

第4回理事会

日時 令和7年1月20日
18時30分～19時30分
会場 静岡県男女共同参画センター あざれあ

5F 第五会議室
出席者 理事18名中16名
監事2名中2名

理事 木ノ内高嘉、鈴木重幸、内海廣治、滝田博之、堀内修、小林久二彦、増田浩二、篠崎勇、大石幸男、出利葉義次、鈴木雅春、中川清、加藤敏美、小林玲子、岩田幸裕、諸戸明、
監事 前川朝夫、望月保男
挨拶 木ノ内会長
東海ブロッククライミング研修会が無事終了し

た。お疲れでした。7月に国民スポーツ大会東海ブロック大会がある。準備をお願いしたい。南アルプスみらい財団の登山教室が2月15日にある。富士山の夏山登山に上山規制が2月県議会で決まる。

(1)各委員会報告

○競技委員会
・11月23日にリードクライミングコンテストがブルーキャニオンで開催。22名が参加。

・12月に高校クライミング大会を開催。122名が参加。県内選手は優秀な成績を残した。

・1月13日にボルダリング大会があり27名が参加した。

・1月18日、19日に東海ブロッククライミング研修会。C級審判には12名が参加した。

・12月8日にTAKAKUSA山岳レースがあり、高校5校から19名が参加した。

(2)事業計画

○指導・遭難対策委員会
・1月26日の指導者研修会には34名と役員4名の38名が参加予定。

・2月1日2日の冬山講習会には高校5校48名をはじめ80名が参加予定。

・蓼科山の雪山教室は指導者2名に減員、現在8名が申込。

・アイスクライミング体験教室は申込2名で中止予定。プライベート講習会を計画中。

○競技委員会
・2月11日に高校。ジュニアクライミングコンテスト(リード)があり募集集中。

・3月20日にも富士でボルダー競技を予定。
・来年度の国民スポーツ大会県予選を4月26日に行う。
・7月19、20に東海ブロック大会を行う。

(3)その他
・県岳連カレンダーは、残部が10部。約5万2千円の黒字となる。

・その他(滝田)。JMSCA登山月報は4月から配布しない予定。今年は役員改選期になる。

・静岡県側富士山登山規制が始まる。3か所にゲートを設け、入山料4千円を徴収する。規制について疑問、意見を出し合った。

(中川清)